



コロナ禍が明けた今年の活動を振り返って

ボーイスカウト福島連盟 理事長 夏井 宏



はじめに、本年元日に発生した能登半島地震で犠牲になった皆さま、被災された皆さまに心よりお見舞いと哀悼の意を表します。また、復興に向けて取り組まれている皆さまへ敬意と感謝を申し上げます。

2023年度を振り返ると、なんとと言っても5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことで、日頃のスカウト活動も活発化した1年でした。各団のSNSやホームページを見ると、元気に活動しているスカウトの笑顔を見ることで実感します。このような中、昨年8月には韓国・全羅北道セマングムにおいて第25回世界スカウトジャンボリーが開催され、本県からも19名のスカウトと指導者が参加しました。猛暑と台風そして新型コロナウイルス感染症の拡大など様々な困難の中、

スカウト達は元気に活動し帰福後は各地区、団において参加報告をしたと聞いております。

また、4月からは新年度となり、我が福島連盟も発足75年の節目の年を迎え、8月には4年間延期となった第13回日本アグーナリーが、本県猪苗代町において東北以北で初めて開催されます。指導者の皆さまには早い段階から日本連盟の実行委員会や専門部会のスタッフとして大会の成功に向けてご尽力いただいております、心から感謝申し上げます。今後も「オールふくしま」で大会を盛り立てて行きましょう。

よりよき青少年の健全育成のため、指導者の皆さまには、引き続きスカウトたちへの温かい見守りと心もこもったご支援をお願いいたします。



今後の活動にむけて県内指導者の皆様へ

県コミッショナー 渡辺 千春

県内の指導者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年は新年早々能登半島沖を震源とする震災や羽田空港での航空機衝突事故など災害や事故で始まる年となってしまいました。

能登半島地震につきましては日々お亡くなりになられた方や行方不明者が増えており、その中にはスカウト関係者も含まれているだろうと思うと心が痛みます。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の拡大により活動に制限のある年となりましたが、各団・各隊において感染対策を徹底しながら工夫を凝らした活動を展開していただき多くのスカウトが仲間や自然とふれあい、かけがえのない経験を積むことができました。そのためにご尽力下さった指導者の皆様には感謝申し上げます。

今年も、引き続き感染対策を徹底しスカウト活動のさらなる充実を図ってほしいと思います。

そのためには各団においてビーバー隊、カブ隊の仲間を増やし安全対策を考慮しワクワク・ドキドキする楽しい活動を展開していくことが重要です。

ビーバー隊・カブ隊の仲間が増えることでスカウト達はより多くの仲間と楽しい活動を体験でき、何よりもその弟や妹など新たなスカウトの獲得も期待できる為、団の維持・発展が見込まれます。

また、各団の指導者の高齢化に対処するため若い指導者の獲得、育成にも努めてください。

スカウトにとって自分と年齢の近いお兄さん・お姉さんリーダーと活動した方が楽しいのです。おじさん・おばさん(又はお爺さん・お婆さん)年代の指導者は若い指導者を前面に出し、自分たちは安全対策や資材の準備、保護者の相手等のバックアップに回った方がより楽しい充実した活動が出来るのではないのでしょうか。

子供たちはスカウト活動を通じて、一人ひとりが、自立心、社会性、リーダーシップなどの、生きていく上で必要な力を身につけ、豊かな人間性を育んでいくことができます。

ぜひ、隊集会(班・組集会)等のボーイスカウト活動を積極的に開催し、スカウト達に貴重な経験を積ませてあげてください。

今後の指導者の皆様の活躍に期待するとともに更なるご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



【バードコールづくり】

5月21日

会津美里町(本郷運動場)

「会津美里第1団」



【モグラの巣づくり】

9月10日

須賀川市(市民の森)

「須賀川第1団」



【スラックライン・ジャンケンバトル】

7月16日

会津若松市(小田山子どもの森)

「会津若松第1団」



【何の匂いかな?】

12月10日

いわき市(松ヶ岡公園)

「いわき地区」

ジャンボリー雑感

25WSJ 日本派遣団第9隊
派遣隊長 大関宏之
(福島第1団)

令和5年8月に第25回世界スカウトジャンボリーが韓国セマングムにて開催され福島連盟から18名が大会に参加した。

会場は韓国南西部の世界的規模の干拓地である。

直前の大雨により会場の一部が沼状化した画像を見て改めて覚悟の入場であったが、翌日から連日35度を超す猛暑晴天であった。

スカウト達は各種の場内プログラムや歴史的建造物を巡る場内プログラムに元気に参加し、海外スカウトとの国際交流を楽しんだ。

会場内に設置されたクーリング設備が不十分であったり、トイレやシャワーの仕様の違いなどが報道され内外から心配する声が届いたが、スカウト達は猛暑の中でも十分に大会を楽しんでいた。



しかし次第に熱中症、虫刺され、感染症、喉の痛みなど体調不良を訴えるものが多くなったが、充実した医療施設や奉仕する医療スタッフの手厚い看護受け、野営生活に戻るスカウトが多かった。

また台風の直撃を避けるために用意された避難先の韓国寺院での3日間の生活。初めて口にする精進料理や、男女別にはしたが本堂や施設内での雑魚寝にたいしても、感謝ことすれ不平不満を口にするスカウトはいなかった。

長期間の野営は自らがスカウトのおきてを基にした生活となる。故にジャンボリーがその後の自らのスカウティングに大きな影響を与える教育の場であることは、自明の理である。

第26回世界スカウトジャンボリーは2027年にポーランドで開催される。参加をめざして欲しい。

次は君たちの番だ。



今後の活動 メッセージ！（目標&抱負）



スカウト数も少なく小規模の団ですが、ビーバーの人数が増えてきています。これからカブに上進してくれることを期待しています。ボーイは中身の濃い活動しようとしてグリーンバー訓練に力を入れたいと思っています。

桑折第1団 副団委員長 松浦 俊充

一貫した教育プログラムを持つスカウティング。自立し自分のカヌーを漕ぐローバースカウトの姿を見て、保護者は我子の将来の姿をイメージする事でしょう。中途退団阻止を考える大きな手がかりとなることを願います。

福島第1団 団委員長 大関 宏之

『僕はロープの結び方が上手にできないので、ボーイ隊のお兄ちゃん達みたいに色々なロープの結び方をできるようになりたいです。そして、みんなで協力して楽しく活動したいです。』

郡山1団 カブ隊 安藤 陽大



私は今年1級スカウト章を取得したいです。そのために去年は計測などの課目に挑戦しました。今年は1級旅行ができるようになりたいです。学校生活とボーイスカウトの活動を両立できるように頑張っていきたいです。

福島第1団 ボーイ隊 大槻 春佳

『ぼくの今年の目標はぼ金活動がんばることです。石川県の地しんでこまっている人がいるからカブたいで五千円をめざしてぼ金活動をしたいです。ぼ金して石川県の人が少しでもこまったことがなくなればいいと思いました。』

郡山1団 カブ隊 柳沼 慶祐

今年は中学3年になり、ボーイスカウトとして活動する最後の年になります。僕の住んでいる猪苗代町で8月にアグーナリーが開催されます。僕はそこに向けてロープワーク等の自分の苦手分野を克服しながら、一級スカウトを目指していきます。

猪苗代第1団 ボーイ隊 橋本 優輝

韓国の25WSJに参加し多くの事を学びました。これからもキャンプなどの活動で学んだことを活かして活動してゆきたいです。またその経験を忘れずに、他の人たちにも面白さを教えて、ボーイスカウトの知名度を上げていきたいです。

猪苗代第1団 バンチャー隊 笠原 昊大



ビーバー隊の決まりを守りながら、みんなと仲良く活動していくため、実施活動の振り返りとして、スカウト・保護者に対しアンケートをとり、今後のプログラム展開に生かして行きたいと思っています。

須賀川1団 ビーバー隊長 齋藤 千恵

去年私は、紅組の組長として活動しました。組長の仕事は最初大変だったけれど、とても楽しく活動できました。また組長として、皆をまとめたりお手本になったりできるようになりました。ことしの4月からは、ボーイ隊に入ります。カブ隊で教わった事を生かして、活動していきたいです。

須賀川1団 カブ隊 大島 侑莉

ボーイスカウトに入隊して九年目になります。仲間と協力し助け合い活動を通し、たくさんのことを学び経験してきました。知識や学んできたことをこれからの生活や人の役に立てるよう実践していきたいです。

いわき第2団 ボーイ隊 國島 伶央

ボーイスカウトの活動での僕のこれからの目標は、すべての活動に積極的に取り組み、怪我をせずに活動することです。そのために、僕はしっかりと体を鍛え、必要な準備物は忘れずに持っていき、隊長の話をしっかり聞いて活動していきたいです。

いわき第2団 ボーイ隊 小島 颯桜

コロナ禍等の影響で沈滞したスカウティングを打破していかなければと思っている。そのためには、スカウティングの原点であるスカウトのアウトドアでのチャレンジの強化に努めなければならない。計画だおれにならないよう是非実行していきたい。

いわき第10団 団委員長 西山 允雄

今年のカブ隊の抱負といたしまして、スカウト達には災害に強く何事にも挑戦・思いやりの心を持つように教えていきたいと思っています。また、リーダーとしてはスカウト達に色々教えられるよう日々勉強していきたいと思っています。

いわき第10団 カブ隊隊長 大谷 盛一



編集後記：今年は、日本アグーナリーの開催や県連創立75周年記念の年です。協力し合い活動していきましょう。